【 51 】

氏名	山　田　淳　智
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第１２０６号
学位授与の日付	昭和56年６月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第５条第２項該当）
学位論文題目	**小腸実験潰瘍の走査電子顕微鏡学的研究** **第１編：鋳型法による小腸潰瘍治癒過程の血管構築の観察** **第２編：インドメサシン潰瘍における表面微細形態の観察**
論文審査委員	教授　木村郁郎　　教授　小川勝士　　教授　村上宅郎

学位論文内容の要旨

第１編では，熱湯を用いてラットの上部小腸に潰瘍を作製し，その治癒過程を，急性期治癒期，瘢痕期に分け，各時期での血管構築の変化を鋳型走査電子顕微鏡法と墨汁色素注入法を用いて明らかにした。

1. 急性期には，潰瘍辺縁の血管に著明な拡張がみられ，血管の新生像には乏しかった。
2. 治癒期には，漿膜側から放射状に集合する血管群，粘膜下層から直線状に発育する血管群，粘膜層の陰窩を取り巻く血管網および再生絨毛を形成する血管網など，多彩な新生血管が観察された。
3. 瘢痕期には，絨毛の血管網の配列が不規則となり，血管の密度が粗になっていた。

第２編では，ラットにインドメサシン２０㎎/㎏を皮下注射し，インドメサシンによる小腸粘膜傷害の形態学的変化を検討した。

1. 初期の変化は，インドメサシン投与１時間後にごく限局した小発赤点として現われ，絨毛先端の上皮細胞の剥離があり，絨毛の微小循環障害が示唆された。
2. インドメサシン投与３日後には障害極期をむかえ，遠位小腸を中心にして多数の潰瘍が形成された。
3. 治癒期には，絨毛は潰瘍に向って配列し，潰瘍側は先細りして一層の再生上皮へと移行し，治癒過程の形態像が明らかになった。

論文審査の結果の要旨

本研究は走査電子顕微鏡を用いて小腸実験潰瘍について研究したものであるが，従来十分確立されていなかった潰瘍治癒過程における血管構築或は表面微細形態について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。